

『雑草の世界』

～押し付けがましいエコの暴言～

- 晃： この詩の意味がわかりますか？
真理： 本当はよくわからないの。理想だけを掲げる人のたわごとのような気がします。
竜一： 何て言ったらいいのかな？ たわごとの殆どは、単に頭の中にある絵空事です。
彩菜： くだらない詩だけど、根本にあるメッセージは、共鳴できるわ。
竜一： それなら、そのメッセージだけを印象に残して、他の部分は忘れればいいんですよ。

私たちは変わり果てたエデンの園に住む。

それは、有毒廃棄物の処理場、

チェルノブイリのショッピングモール。

高額の入園料を課す

放射能に汚染されたディズニーランド。

そこではクレジットカードは必要でも、

頭を使う必要はない。

何度も通ってくる人々を、

ミッキーマウスのマネキンのように扱う。

- ジュール： （奇妙なレゲエスタイルで）おやっ、これは退屈だ！
アンドレイ： （ロシア語とジャマイカ語のファンキーなミックスで）中身が真実であっても、誰も説教者の話を聞きたがりません。
エリヤ： おそらく私たちは時々リマインダを必要とします。

青い地球と

海をほめたたえてください。

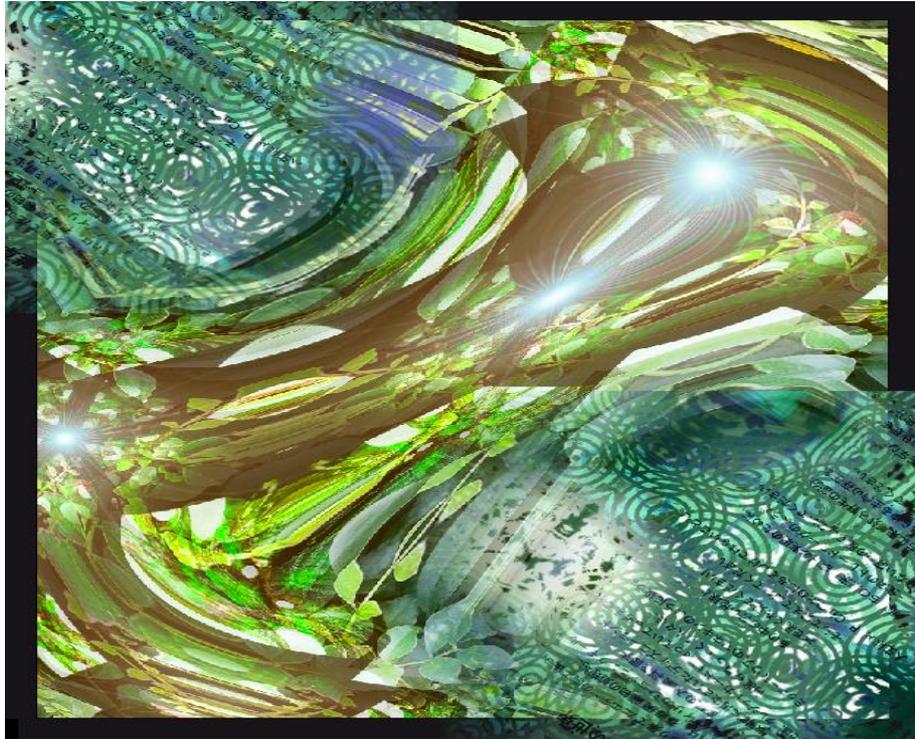
そして覚えておいてください、

人生は A、B、C 社に提供されていない。

あなたの将来を

トレードマークギミックや

貪欲の化身にならないように。



アンドレイ： ねえ、もっとビールを買ってくれる？ この愚かな詩が終わるまでに、僕はそれをおそらく必要とするだ。
フィラ： いいよ。（笑）お前は、本当に愚かな化石だ！
アンドレイ： （うなずく）うーん、酒に酔いみよう！

まだ野生である我々の部分を断言してください
そして、すべてのものに属する生命の部分。

死んでいるあなたの部分を捨てる：
まだ生きている小さな部分を大切にしてください。

フィラ： （彼の頭を振る）この詩人は、たわごとでいっぱいだ！
アンドレイ： （ビールの安い缶の上にふたをポッピングする）うたがいもなく。
では、乾杯！

- T Newfields (和訳：榎谷メリッサと 吉田典子)
開始：1994年 静岡市・ 完成：2020年 横浜市

